# RV340WルータのAdvanced Wireless設定

#### 目的

無線設定は、ワイヤレス無線アンテナとその特性をルータに設定するために使用され、高速 で輻輳がなく、最適なネットワーク設定に合わせて調整できます。ルータにワイヤレス機能 を備えることで、デバイスはワイヤレスアクセスポイントとしても管理できます。ルータの 統合ワイヤレス機能は、追加のワイヤレスネットワークデバイスのコストを削減しながら、 必要なときに拡張できる機会を提供する先進的なソリューションです。

高度なワイヤレス設定により、ワイヤレス機能は特定のデータレートで動作するクライアントにサービスを提供できます。

この記事では、RV340WルータのAdvanced Wireless Settingsの設定方法を説明します。

## 該当するデバイス

• RV340W

#### [Software Version]

• 1.0.01.16

#### ワイヤレスの詳細設定

#### 2.4 GHzの設定

ステップ1:Webベースのユーティリティにログインし、[**Wireless**] > [Advanced Settings]を 選択します。

	Getting Started
•	Status and Statistics
•	Administration
•	System Configuration
•	WAN
•	QoS
►	LAN
×	Wireless
	Basic Settings
	Basic Settings Advance Settings
	Basic Settings Advance Settings Captive Portal
	Basic Settings Advance Settings Captive Portal WPS
•	Basic Settings Advance Settings Captive Portal WPS Routing
+	Basic Settings Advance Settings Captive Portal WPS Routing Firewall
* * *	Basic Settings Advance Settings Captive Portal WPS Routing Firewall VPN

ステップ2:設定する無線タブを選択します。オプションは2.4Gと5Gです。

注:この例では、2.4Gが選択されています。

Advance S	Settings												
2.4G 5G													
Frame Burst:			2	Enab	le								
WMM No Ack	nowledgen	nent:		Enab	le								
Data Rate:	Set	To De	fault										
Basic Ra	te:												
	Rate	1	2	5.5	6	9	11	12	18	24	36	48	54

ステップ3:[Enable Frame Burst] チェックボックスをオンにして、無線が短時間の間、一連 のフレームを連続して迅速に送信できるようにします。フレームバーストは、必要な期間を 待つ前に最大3つのパケットのシーケンスをバーストするフレーム間待ち間隔を使用して、 クライアントがより高いスループットでデータをアップロードする機能を強化します。

**注**:この機能を有効にすると、ダウンストリームスループットが向上する可能性があります。

Advance S	Settings												
2.4G 5G													
Frame Burst:			$\odot$	Enabl	e								
WMM No Act	knowledgen	nent:		Enabl	e								
Data Rate:	Set	To De	fault	1									
Basic Ra	te:			_									
	Rate	1	2	5.5	6	9	11	12	18	24	36	48	54

ステップ4:(オプション)WMM No Acknowledgementを有効にするには、[Enable]チェッ クボックスをオンにします。Wi-Fi Multimedia(WMM)オプションは、VoIPやビデオなどのマ ルチメディアアプリケーションに使用されるQuality of Service(QoS)機能を有効にします。 これにより、マルチメディアアプリケーションのネットワークパケットが通常のデータネッ トワークパケットよりも優先されるため、マルチメディアアプリケーションをよりスムーズ かつ少ないエラーで実行できます。この機能により、スループットは効率化されますが、エ ラー率は高くなります。

Advance S	Settings												
2.4G 5G													
Frame Burst:				Enab	le								
WMM No Ack	nowledgen	nent:	0	Enab	le								
Data Rate:	Set	To De	fault	]									
Basic Ra	te:												
	Rate	1	2	5.5	6	9	11	12	18	24	36	48	54
							∢						

ステップ5:(オプション)[デフォルトに設定(**Set To Default**)]ボタンをクリックして、下の [基本レート(Basic Rate)]テーブルのデフォルトのデータレートのチェックボックスに戻しま す。

Data Rate:	Set	t To De	əfault	]																							
Basic Ra	te:																										
	Rate	1	2	5.5	6	9	11	12	18	24	36	48	54														
		۲					2																				
Transmis	sion Rate:													_													
	Rate	1	2	5.5	6	9	11	12	18	24	36	48	54														
		۲	۲		۷	۲		۲	۲	۲	۲	۲	۲														
					_																						
	HT MCS	Index	0	) 1		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
			6	0 6	0	2	•		2	2	2		2	2			2	2		2				2			۲

ステップ6:[Basic Rate]テーブルで、2.4 GHz無線がブロードキャストするMbps(メガビット/秒)の該当レートのチェックボックスをオンにします。デフォルトのレートは1 Mbps、2 Mbps、5.5 Mbps、および11 Mbpsです。

**注**:レート1 Mbpsと2 Mbpsは、より低い最大レートでのみ送信されるレガシーデバイスに 使用されます。

Data Rate:	Set	To De	fault	]																							
Basic Rat	te:																										
	Rate	1	2	5.5	6	9	11	12	18	24	36	48	54														
	. (													]													
Transmis	sion Rate:																										
	Rate	1	2	5.5	6	9	11	12	18	24	36	48	54														
					2	Ø	Ø	2		2	۲	۲	2														
	HT MCS	Index	0	1	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
				0 6	0		2		2	2	2	2	×	2		2	2		2								۲

ステップ7:[Transmission Rate]エリアで、ワイヤレスネットワークの帯域幅で必要なレート のチェックボックスをオンにします。デフォルト設定では、すべてのチェックボックスがオ ンになっています。

Data Rate:	Se	et To De	fault																								
Basic Ra	te:																										
	Rate	1	2	5.5	6	9	11	12	18	24	36	48	54														
		۲					۲																				
Transmis	sion Rate	ĸ																									
	Rate	1	2	5.5	6	9	11	12	18	24	36	48	54														
					2								1														
	HT MC	S Index	0	) 1		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
			6	0 6	0	•	•		•	•	2				۲		۲				۲					۲	۲

ステップ8:HT MCSインデックスで、必要なHigh Transmission Modulation(HSM)および Coding Scheme Index(HT MCS)レートのチェックボックスをオンにします。MCSは、 Multiple-Input Multiple-Output(MIMO)とも連携し、アンテナが空間ストリームを作成するた めに使用するデータレートを示します。802.11nでは、データストリームは両方のアンテナ で送受信できます。そのため、一定時間内に送受信されるビット数が増え、通常は屋内での カバー領域において問題となるマルチパス信号も効率的に利用されます。

**注**:この例では、ネットワークに接続されたレガシーデバイスに対応するために、すべての レートがチェックされます。

Data Rate:	Set	t To De	fault																								
Basic Ra	te:																										
	Rate	1	2	5.5	6	9	11	12	18	24	36	48	54	1													
Transmis	sion Rate:		0		c	0	44	40	40	24	20	40	54														
	Rate	1	4	0.0	0	9		12	10	24	30	90	04														
		×	×	×	×	8	8	8			8	8	×														
	HT MCS	Index	0	1	1	2 3	3 4	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
				0 6	0 8		•	•	2	•		2		2	×				Ø					2			۲

ステップ9:[CTS Protection Mode]**オプションボタンを**クリックします。クリアツーセンド (CTS)保護オプションを使用すると、保護メカニズムが有効になります。保護メカニズムを 使用すると、802.11bと802.11gが混在する環境のステーション間の衝突を最小限に抑える ことができます。使用可能なオプションは次のとおりです。

- [Disabled]:CTS Protectionモードが無効です。
- [自動(Auto)]:CTS保護は、必要な場合にのみチェックします。

注:この例では、[Auto]が選択されています。

CTS Protection Mode:	Disabled	Auto
Beacon Interval:	100	Milliseconds (Range: 40-3500, Default: 100)
DTIM Interval:	1	(Range: 1-255, Default: 1)
Fragmentation Threshold:	2346	(Range: 256-2346, Default: 2346)
RTS Threshold:	2347	(Range: 0-2347, Default: 2347)
Tx Power:	Full	•
Apply Cancel		

ステップ10:[ビーコン*間隔*]フィールドに、ビーコンフレームの送信間隔をミリ秒単位で入力 します。ビーコンフレームは、無線ネットワークの存在を通知するために定期的に送信され る。デフォルトは 100 です。

注:この例では、デフォルト値100が使用されています。

CTS Protection Mode:	O Disabled	Auto
Beacon Interval:	100	Milliseconds (Range: 40-3500, Default: 100)
DTIM Interval:	1	(Range: 1-255, Default: 1)
Fragmentation Threshold:	2346	(Range: 256-2346, Default: 2346)
RTS Threshold:	2347	(Range: 0-2347, Default: 2347)
Tx Power:	Full	\$
Apply Cancel		

ステップ11:「*DTIM間隔*」フィールドに、1 ~ 255の整数を入力します。ビーコンフレーム には、クライアントがWAPでデータをバッファしているかどうかを示すDelivery Traffic Indication Messages(DTIM)が含まれます。ビーコン数1はDTIMメッセージのすべてのビー コンをチェックし、50は50番目のビーコンごとにチェックします。

注:この例では、デフォルト値1が使用されます。

CTS Protection Mode:	Disabled	Auto
Beacon Interval:	100	Milliseconds (Range: 40-3500, Default: 100)
DTIM Interval:	1	(Range: 1-255, Default: 1)
Fragmentation Threshold:	2346	(Range: 256-2346, Default: 2346)
RTS Threshold:	2347	(Range: 0-2347, Default: 2347)
Tx Power:	Full	\$
Apply Cancel		

ステップ12:[Fragmentation Threshold] フィールドに、ネットワーク経由で送信できるパケットの最大サイズ(バイト)を入力します。最大サイズより大きいパケットはフラグメント化され、いくつかの小さなパケットとして送信されます。無線干渉が発生しない限り、フラグメンテーションは推奨されません。

注:この例では、デフォルト値2346が使用されています。

CTS Protection Mode:	O Disabled	<ul> <li>Auto</li> </ul>
Beacon Interval:	100	Milliseconds (Range: 40-3500, Default: 100)
DTIM Interval:	1	(Range: 1-255, Default: 1)
Fragmentation Threshold:	2346	(Range: 256-2346, Default: 2346)
RTS Threshold:	2347	(Range: 0-2347, Default: 2347)
Tx Power:	Full	\$
Apply Cancel		

ステップ13:[RTS Threshold]フィールドに、MACプロトコルデータユニット(MPDU)のオク テット数を示すRTSしきい値を入力します。この値は、RTS/CTSハンドシェイクが実行さ れない値を下回ります。しきい値が低いほど、パケットの送信が頻繁に行われ、帯域幅の消 費が増加します。ただし、送信されるパケットが多いほど、ネットワークはビジー状態のネ ットワークで発生する干渉や衝突から回復する速度が速くなります。

注:この例では、デフォルト値の2347が使用されています。

CTS Protection Mode:	Disabled	Auto
Beacon Interval:	100	Milliseconds (Range: 40-3500, Default: 100)
DTIM Interval:	1	(Range: 1-255, Default: 1)
Fragmentation Threshold:	2346	(Range: 256-2346, Default: 2346)
RTS Threshold:	2347	(Range: 0-2347, Default: 2347)
Tx Power:	Full	\$
Apply Cancel		

ステップ14:[Tx Power]ドロップダウンリストから、ルータが無線経由で送信するために使用する電力のパーセンテージを選択します。次のオプションがあります。

- Full:無線は100%の送信電力を使用します。
- •高(50%):無線は50%の送信電力を使用します。
- •中(25%):無線は25%の送信電力を使用します。
- •低(12%):無線は12%の送信電力を使用します。

注:この例では、[Full]が選択されています。



ステップ15:[Apply]をクリ**ックします**。

CTS Protection Mode:	Oisabled	Auto
Beacon Interval:	100	Milliseconds (Range: 40-3500, Default: 100)
DTIM Interval:	1	(Range: 1-255, Default: 1)
Fragmentation Threshold:	2346	(Range: 256-2346, Default: 2346)
RTS Threshold:	2347	(Range: 0-2347, Default: 2347)
Tx Power:	Full	\$
Apply Cancel		

これで、RV340Wルータの2.4 GHz Advanced Wireless設定が正常に設定されました。

### 5 GHzの設定

ステップ1:[**5G**]タブをクリックします。

2.4G 5G		
Frame Burst:		Enable
WMM No Acknowledgement:		Enable
Data Rate: Set To De	efault	

ステップ2:[フレームバーストを有効**にする(Enable** Frame Burst)]チェックボックスをオンに して、無線が短時間の間、一連のフレームを連続して迅速に送信できるようにします。フレ ームバーストは、フレーム間待ち間隔を使用して最大3つのパケットのシーケンスをバース トし、必要な期間だけ待つ必要がある場合に、クライアントがより高いスループットでデー タをアップロードする機能を強化します。デフォルトはオフです。

**注**:この機能を有効にすると、ダウンストリームスループットが向上する可能性があります。

2.4G 5G
Frame Burst: I Enable
WMM No Acknowledgement: Enable
Data Rate: Set To Default

ステップ3:(オプション)WMM No Acknowledgementを有効にするには、[Enable]チェッ クボックスをオンにします。Wi-Fi Multimedia(WMM)オプションは、VoIPやビデオなどのマ ルチメディアアプリケーションに使用されるQuality of Service(QoS)機能を有効にします。 これにより、マルチメディアアプリケーションのネットワークパケットが通常のデータネッ トワークパケットよりも優先されるため、マルチメディアアプリケーションをよりスムーズ かつ少ないエラーで実行できます。この機能により、スループットは効率化されますが、エ ラー率は高くなります。デフォルトはオフです。

注:この例では、[WMM No Acknowledgment]がオフになっています。



ステップ4:(オプション)[Set To Default(デフォルトに設定)]ボタンをクリックして、下の[Basic Rate(基本レート)]テーブルのデフォルトのデータレートのチェックボックスに戻します。

Data Rate:	Se	t To D	efault																
Basic Ra	te:																		
	Rate	6	9	12	18	24	36	48	54										
Transmis	sion Rate	c																	
	Rate	6	9	12	18	24	36	48	54										
			•		•		•												
	HT MC	S Inde	x	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
				16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
					•														
	VHT MO	CS Ind	lex	1	SS	Enabl	e (	0-7	0-8	0-9	0-11	1							
						•	(	0	0	0	۲								
				2	SS	Enabl	e	0-7	0-8	0-9	0-11								
						1	(	0	0	0	۲								
				3	SS	Enabl	e	0-7	0-8	0-9	0-11								
						1	(		0	0	۲								
				4	SS	Enabl	e (	0-7	0-8	0-9	0-11								
						1	(		0	0	۲								

ステップ5:[Basic Rate]テーブルで、5 GHz無線がブロードキャストするメガビット/秒 (Mbps)の該当レートのチェックボックスをオンにします。デフォルトのレートは6 Mbps、 12 Mbps、および24 Mbpsです。

**注**:レート6 Mbps、12 Mbps、および24 Mbpsは、特定のレートでのみ送信される5 GHz帯 域のレガシーデバイスに使用されます。

Data Rate:	Se	t To D	efault	t															
Basic Ra	te:																		
	Rate	6	9	12	18	24	36	48	54										
Transmis	sion Rate	e:																	
	Rate	6	9	12	18	24	36	48	54										
	HT MC	S Inde	x	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
				16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
				•								1							
	VHT M	CS Inc	iex	1	SS	Enabl	e (	0-7	0-8	0-9	0-11	1							
							(	)	0	0	۲								
				2	SS	Enabl	e (	0-7	0-8	0-9	0-11								
							(	0	0	0	۲								
				3	SS	Enabl	e (	0-7	0-8	0-9	0-11								
							(	0	0	0	۲								
				4	SS	Enabl	e (	0-7	0-8	0-9	0-11								
							0		0	0	۲								

ステップ6:[Transmission Rate]エリアで、ワイヤレスネットワークの帯域幅で必要なレート のチェックボックスをオンにします。デフォルト設定では、すべてのチェックボックスがオ ンになっています。

Data Rate:	Se	t To D	efault																
Basic Rat	te:																		
	Rate	6	9	12	18	24	36	48	54										
Transmis	sion Rate																		
	Rate	6	9	12	18	24	36	48	54										
							•												
	HT MCS	S Inde	~	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	TTT MICK	0 1100	^	v V	•	2								<b>IO</b>		<ul> <li>Image: Control of the second se</li></ul>	<b>IO</b>		<b>II</b>
				16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
				<b>V</b>				20			20	2	20	<b>V</b>		<b>2</b> 0	20	2	
															-				
	VHT MO	CS Ind	lex	1	SS	Enabl	e	0-7	0-8	0-9	0-11								
						•		0	0	0	۲								
				2	SS	Enabl	e	0-7	0-8	0-9	0-11								
						1		0	0	•	۲								
				3	SS	Enabl	e	0-7	0-8	0-9	0-11								
						•		0	0	0	۲								
				4	SS	Enabl	e	0-7	0-8	0-9	0-11								
						•		0	0	0	۲								

ステップ7:HT MCSインデックスで、必要なHigh Transmission Modulation(HSM)および Coding Scheme Index(HT MCS)レートのチェックボックスをオンにします。MCSは、マル チユーザ複数入力複数出力(MU-MIMO)とも関連しており、アンテナが空間ストリームを作 成するために使用するデータレートを示します。

**注**:この例では、ネットワークに接続されたレガシーデバイスに対応するために、すべての レートがチェックされます。

Data Rate:	Se	et To D	Default	t															
Basic Ra	ite:																		
	Rate	6	9	12	18	24	36	48	54										
Transmis	ssion Rate	e:																	
	Rate	6	9	12	18	24	36	48	54										
	HT MC	S Inde	x	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
						۲													
				16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	VHT M	CS Inc	dex	1	SS	Enabl	e	0-7	0-8	0-9	0-11	1							
						•		0	0	0	۲								
				2	SS	Enabl	e	0-7	0-8	0-9	0-11								
						1		0	0	0	۲								
				3	SS	Enabl	e	0-7	0-8	0-9	0-11								
						•		0	0	0	۲								
				4	SS	Enabl	e	0-7	0-8	0-9	0-11								
						1	-	•	0	0	۲								

ステップ8:VHT MCS Indexで、各アンテナに対して有効にする空間ストリーム数のEnable チェックボックスをオンにします。MU-MIMOは802.11ac Wave 2で導入された機能です。 Wave 2 MU-MIMOのサポートはアクセスポイントとクライアントデバイスの両方で必要で あり、ダウンストリーム方向で動作し、アクセスポイントは複数のクライアントデバイスに 同時に送信できます。次のオプションがあります。

- •1SS:1つまたは1つの空間ストリーム
- •2SS:2空間ストリーム
- 3SS:3空間ストリーム
- •4SS:4空間ストリーム

**注**:この例では、すべてのチェックボックスがオンになっています。

Data Rate:	S	et To D	Defaul	t															
Basic Ra	ate:																		
	Rate	6	9	12	18	24	36	48	54										
Transmis	ssion Rate	B:																	
	Rate	6	9	12	18	24	36	48	54										
					•														
	HT MC	S Inde	x	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
				16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
				1									1						
	VHT M	CS Ind	dex	1	SS	Enabl	e	0-7	0-8	0-9	0-11	1							
								0	0	•	۲	1							
				2	SS	Enabl	e	0-7	0-8	0-9	0-11								
						1	1	0	0	0	۲								
				3	SS	Enabl	e	0-7	0-8	0-9	0-11								
						1	1	•	0	0	۲								
				4	SS	Enabl	e	0-7	0-8	0-9	0-11								
									$\circ$	0	۲								

ステップ9:オプションボタンをクリックして、VHT MCSがサポートするレートの種類を選択します。

- •0~7:MCSの最小サポート(0~7)。
- •0~8:MCSの最小サポート(0~8)。
- •0~9:MCSの最小サポート(0~9)。
- 0-11:0 ~ 11のMCSの最小サポート。

注:この例では、使用可能なすべての空間ストリーム値に0-11が使用されています。

Data Rate:	S	et To D	efaul	t															
Basic Ra	te:																		
	Rate	6	9	12	18	24	36	48	54										
Transmis	sion Rate	ə:																	
	Rate	6	9	12	18	24	36	48	54										
					•			•											
	HT MC	S Inde	x	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
												•							
				16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
												•							
	VHT M	CS Inc	lex	1:	SS	Enabl	e 🖊	)-7	0-8	0-9	0-11								
						•			0	0	۲								
				2	SS	Enabl	e (	)-7	0-8	0-9	0-11								
						1	- (		0	0	۲								
				3	SS	Enabl	e (	)-7	0-8	0-9	0-11								
						1	0		0	0	۲								
				4	SS	Enabl	e (	)-7	0-8	0-9	0-11								
						1			0	0	۲								

ステップ10:[CTS Protection Mode]オプションボタンをクリックします。クリアツーセンド (CTS)保護オプションを使用すると、保護メカニズムが有効になります。保護メカニズムを 使用すると、802.11bと802.11gが混在する環境のステーション間の衝突を最小限に抑える ことができます。使用可能なオプションは次のとおりです。

- [Disabled]:CTS Protectionモードが無効です。
- [自動(Auto)]:CTS保護は、必要な場合にのみチェックします。
  - 注:この例では、[Auto]が選択されています。

CTS Protection Mode:	Disabled	O Auto
Beacon Interval:	100	Milliseconds (Range: 40-3500, Default: 100)
DTIM Interval:	1	(Range: 1-255, Default: 1)
Fragmentation Threshold:	2346	(Range: 256-2346, Default: 2346)
RTS Threshold:	2347	(Range: 0-2347, Default: 2347)
Tx Power:	Full	\$
Apply Cancel		

ステップ11:[ビーコン*間隔(Beacon Interval)]*フィールドに、ビーコンフレームの送信間隔を ミリ秒単位で入力します。ビーコンフレームは、無線ネットワークの存在を通知するために 定期的に送信される。デフォルトは 100 です。

注:この例では、デフォルト値100が使用されています。

CTS Protection Mode:	Disabled	Auto
Beacon Interval:	100	Milliseconds (Range: 40-3500, Default: 100)
DTIM Interval:	1	(Range: 1-255, Default: 1)
Fragmentation Threshold:	2346	(Range: 256-2346, Default: 2346)
RTS Threshold:	2347	(Range: 0-2347, Default: 2347)
Tx Power:	Full	\$
Apply Cancel		

ステップ12:「*DTIM期間*」フィールドに、1 ~ 255の整数を入力します。ビーコンフレーム には、クライアントがWAPにデータをバッファリングしているかどうかを示すDelivery Traffic Indication Messages(DTIM)が含まれます。ビーコン数1はDTIMメッセージのすべて のビーコンをチェックし、50は50番目のビーコンごとにチェックします。

注:この例では、デフォルト値1が使用されています。

CTS Protection Mode:	O Disabled	Auto
Beacon Interval:	100	Milliseconds (Range: 40-3500, Default: 100)
DTIM Interval:	1	(Range: 1-255, Default: 1)
Fragmentation Threshold:	2346	(Range: 256-2346, Default: 2346)
RTS Threshold:	2347	(Range: 0-2347, Default: 2347)
Tx Power:	Full	\$
Apply Cancel		

ステップ13:[Fragmentation Threshold] フィールドに、ネットワーク経由で送信できるパケットの最大サイズ(バイト)を入力します。最大サイズより大きいパケットはフラグメント化され、いくつかの小さなパケットとして送信されます。無線干渉が発生しない限り、フラグメンテーションは推奨されません。

注:この例では、デフォルト値2346が使用されています。

CTS Protection Mode:	Oisabled	Auto
Beacon Interval:	100	Milliseconds (Range: 40-3500, Default: 100)
DTIM Interval:	1	(Range: 1-255, Default: 1)
Fragmentation Threshold:	2346	(Range: 256-2346, Default: 2346)
RTS Threshold:	2347	(Range: 0-2347, Default: 2347)
Tx Power:	Full	\$
L		
Apply Cancel		

ステップ14:[*RTS Threshold*]フィールドに、*MACプロトコルデータユニット(MPDU)のオク テット数を示すRTSしきい値を入力します。この値は、RTS/CTSハンドシェイクが実行さ れない値を下回ります。*しきい値が低いほど、パケットの送信が頻繁に行われ、帯域幅の消 費が増加します。ただし、送信されるパケットが多いほど、ネットワークはビジー状態のネ ットワークで発生する干渉や衝突から回復する速度が速くなります。

注:この例では、デフォルト値2347が使用されています。

CTS Protection Mode:	O Disabled	<ul> <li>Auto</li> </ul>
Beacon Interval:	100	Milliseconds (Range: 40-3500, Default: 100)
DTIM Interval:	1	(Range: 1-255, Default: 1)
Fragmentation Threshold:	2346	(Range: 256-2346, Default: 2346)
RTS Threshold:	2347	(Range: 0-2347, Default: 2347)
Tx Power:	Full	\$
Apply Cancel		

ステップ15:[Tx Power]ドロップダウンリストから、ルータが無線経由で送信するために使用する電力のパーセンテージを選択します。次のオプションがあります。

- Full:無線は100%の送信電力を使用します。
- •高(50%):無線は50%の送信電力を使用します。
- ・中(25%):無線は25%の送信電力を使用します。
- ・低(12%):無線は12%の送信電力を使用します。

注:この例では、[Full]が選択されています。

CTS Protection Mode:	<ul> <li>Disabled          <ul> <li>Auto</li> </ul> </li> </ul>
Beacon Interval:	101 Milliseconds (Range: 40-3500, Default: 100
DTIM Interval:	2 (Range: 1-255, Default: 1)
Fragmentation Threshold:	2346 (Range: 256-2346, Default: 2346)
RTS Threshold:	2347 (Range: 0-2347, Default: 2347)
Tx Power:	✓ Full High (50%) Medium (25%) Low (12%)
Apply Cancel	

ステップ16:[Apply]をクリ**ックします**。

Disabled	<ul> <li>Auto</li> </ul>
100	Milliseconds (Range: 40-3500, Default: 100)
	(Range: 1-255, Default: 1)
2346	(Range: 256-2346, Default: 2346)
2347	(Range: 0-2347, Default: 2347)
Full	•
1 1 1	00 346 347 Full

これで、RV340Wルータの5 GHz Advanced Wireless設定が正常に設定されました。